

# 川越時間旅行 19

文化財保護課 224-6097

## よみがえった隨身門

仙波東照宮の重要文化財建造物である隨身門。昭和53年(1978)以来となる漆塗を中心とした塗装修理が今年行われました。30年以上の時の経過から生じた傷みや剥落した漆塗および彩色を建築当初の姿によみがえらせるため、劣化した塗装のかき落としなど、幾工程にもおよび入念な作業が繰り返行われました。

修理が完了した隨身門は、弁柄漆塗が施され、あたかも水で濡れたような艶やかな朱が目にも鮮やかです。そして、周りの風景が映り込む塗装面の様子は、まるで鏡面のように見えがあります。この弁柄漆塗のほかに天井格縁には、黒漆塗が施されました。この漆塗は漆黒という表現がまさにふさわしい艶やかな深みのある黒色です。また、



境内入り口すぐそばにある隨身門

天井板などに真っ白な胡粉塗、正面柵には青緑色の緑青塗という彩色が行われました。往時をしのぶ艶やかな輝きと鮮やかな彩色がよみがえった隨身門を、ぜひ実際にご覧下さい。



カブは鮮度が大切

## カブ

埼玉県が全国有数の産地となっている野菜の1つに

カブがあります。川越は、県内トップクラスのカブの産地。「カブの旬は春と秋の年2回あります。旬のものはサラダでも食べられますよ」と話すのは、川越有機グループの落合彦さん(中福)。

同グループは、葉物野菜を中心に農薬や化学肥料の使用量を基準の半分以下に減らして栽培する

特別栽培農産物の生産に取り組んでいる団体です。落ち葉などを利用した有機たい肥を使った土づくりから始まり、防虫ネットの設置や雑草取りをするなど手塩にかけて栽培しています。

カブはスープ、漬物、炒めものなどに使える万能な食材です。これからの季節、カブを入れた温かいシチューもお勧め。落合さんが育てたカブは、伊佐沼農産物直売所などで購入できます。



「葉をぜひ食べて下さい。炒めてジャコと絡めるとご飯に合います」と落合さん

今年、10月19日(土)・20日(日)に行われ、15台の山車が参加します。秋の空気を感しながら、山車が行き交う姿を見るのが、今から楽しみです。

## 空

に浮かぶうろこ雲に秋の到来を感じるようになります。



蔵造りの町並みの中を曳行される山車

編集後記

どんぐり

広報川越 1304

発行日/平成25年10月10日(毎月10日・25日発行)

発行/川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171

編集/広報室

印刷/旬新広社

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

